

LIP.横浜×CONNECT “The Springboard™ Program in Yokohama”

—よくあるご質問 (Q&A) —

◆申請について

Q1	対象事業について、「創業シーズは前臨床以上のステージにあること、デバイスはプロトタイプがあること」とは、具体的にどのような状態を示すのか。
A1	<p>今回のプログラムは、自身の持つ製品やサービスについて、訴求力の高いピッチを行えるようにスキルを磨くものです。実際にメンターからコーチングを受け、そのアウトプットとして成果を発信していくため、アイデアの段階ではなく、ある程度形になっている事業を対象とします。</p> <p>したがって、創業などの場合には、「前臨床試験」にのぞむ段階にあることが必要です。デバイス開発などの場合には、「プロトタイプ」を有していることを求めます。</p>

Q2	参加資格について、「LIP.横浜会員」とは、公募開始時点で会員となっていることが必要か。また、LIP.横浜会員であれば、市内企業でなくても申請できるのか。
A2	<p>公募開始時点で会員でない場合でも、本プログラムへの申請が可能です。同時に、LIP.横浜会員への申込をしていただきます。</p> <p>ただし、応募が10件を超えた場合は下の表の優先順位にて審査に通します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 横浜市内に本社のある中小企業 2 本社は横浜市外だが、市内に事業所等のある市内中小企業 3 将来的に横浜市内に事業所等を立地することを考えている企業 <p>※申込時に横浜市への立地計画を提出いただきます。</p> <p>LIP.横浜会員は、市内・市外を問いません。したがって、LIP.横浜会員であれば、市内企業でなくても、本プログラムへの申請が可能です。なお、LIP.横浜会員登録にあたっては、対象・参加要件がありますので、詳細はLIP.横浜のHPをご確認ください。</p> <p>https://www.city.yokohama.lg.jp/business/keizai/lifescience/lip/20170227162912.html</p>

Q3	募集人数について、「4者・チーム」とあるが、どのような参加を想定しているか。
A3	<p>LIP.横浜会員であれば、個人の参加が可能であるため、「者」としています。大学又は公的研究機関の研究者の方が単独で参加することが可能です。</p> <p>また、「チーム」での参加も可能です。1チームあたり1～3名程度までを想定しています。</p> <p>例えば、シーズを有する研究者とビジネス経験者がチームアップして2名で参加することが可能です。</p> <p>あるいは、現在所属している組織とは別組織の方と組まれたチームで参加することも可能です。</p>

◆スケジュールについて

Q4	一次審査（書類審査）はどのように実施されるのか。
A4	公募締切（5月31日）後、CONNECTの審査チームによって一次審査（書類審査）を実施します。 結果は、6月下旬に通知する予定です。

Q5	二次審査（Web面接）はどのように実施されるのか。
A5	<p>7月13日（水）から21日（木）のうち、1日を指定させていただき、二次審査（Web面接）に参加いただきます。場所は、YOXOBOX（よくぞボックス）※を予定していますが、新型コロナウイルス感染症等の状況により、外出や会議の自粛が要請され、YOXOBOXでの実施が不可能な場合には、ご自身のPCを使用してZoomでの参加となります。所要時間は、1社あたり1時間程度となる予定です。</p> <p>詳細については、一次審査の結果通知時にお知らせいたしますが、プレゼンテーションのご準備をいただきます。</p> <p>※YOXO BOXについて YOXO BOXは、横浜に新しい交流を生み出すためのサンドボックス（砂場＝実験場）となるという意味を込めて命名したスタートアップ企業成長支援拠点です。この空間で、「イノベーション都市・横浜」の実現に向けた活動を推進しています。</p> <p>アクセス：〒231-0015 横浜市中区尾上町一丁目6番 ICON 関内（関内駅より徒歩3分）</p>

◆プログラムの内容について

Q6	キックオフは、具体的に何をするのか。
A6	プログラムへの参加が確定した者（4者・チーム程度）とマッチングしたメンターが Web 上で顔合わせを行うイベントです。プログラムのキックオフということで、例えば、プロトタイプを動かしてみたり、苦労話をしてみたりと、ざっくばらんなコミュニケーションを通じて、信頼関係を構築し、モチベーションを高めていただく機会となります。

Q7	メンタリングは、具体的に何をするのか。
A7	8月・9月・10月の各月1回（合計3回）のWeb会議、及びメールを介したコーチングを通じて英語でのピッチスキルを磨きます。具体的には、米国市場への進出を志向する上での開発・経営課題等をメンターに「ぶつけて」いただき、メンターの知見を活用しながら課題解決の糸口を見つけていきます。

Q8	ピッチプラクティスは、具体的に何をするのか。
A8	9月・11月の各月1回（合計2回）のWeb会議を通じて英語でのピッチの練習を行い、メンターからのフィードバックを受けることができます。

Q9	プログラムのゴール（到達目標）設定は。プログラム参加によるメリットは。
A9	<p>米国市場へのビジネス展開を見据えてビジネスをブラッシュアップし、VC等に向けたピッチの準備を行うことを目標とします。（資金獲得そのものを目的としたプログラムではありません。）</p> <p>狙いとしては、現場を体感していただくことです。言わば、「サンディエゴで実績のあるプロ経営者を『顧問』として迎え、無料で3か月間、ブレンとしてメンバーに加わってもらう」というイメージです。</p> <p>その結果、例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発において連携すべき領域の明確化、技術の提案力や製品の訴求力の向上が期待されます。 ・また、プログラム修了実績は、サンディエゴでのネットワークを広げる際に、信頼性の証となります。

◆その他

Q10	プログラムへの全参加は必須か。
A10	メンタリングという性質上、全日程、同じ方に参加いただくことを前提とします。

Q11	CONNECT の“Springboard”とは、どのようなプログラムか。
A11	<p>CONNECT’s Springboard Program is a world class in-depth mentoring program for innovators and entrepreneurs in the life science and technology sectors.</p> <p>The main objective of the program is to assist entrepreneurs in refining their business plan, developing a commercialization strategy for their product or service, and crafting a robust investor pitch deck.</p> <p>The comprehensive coaching process is focused on the development of a strong business proposition that can be presented to investors.</p> <p>CONNECT の Springboard プログラムは、ライフサイエンス及びテクノロジー分野のイノベーターと起業家のための、世界クラスの徹底したメンタリングプログラムです。</p> <p>プログラムの主な目的は、起業家がビジネスプランを洗練させ、製品またはサービスのための商品化戦略を開発し、投資家に向けたピッチを作り上げることを支援することです。</p> <p>包括的なコーチングプロセスが重視しているのは、投資家にプレゼンテーションのできる強力なビジネス提案をすることです。</p>